



「ロータリーは
分かちあいの心！」
2007-2008 年度 RI テーマ
RI 会長 ウィルフリッド J. ウィルキンソン
第 2640 地区ガバナー 平原祥彰



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1518 回例会 20 年 2 月 25 日(月)

海南商工会議所 4 F 12:30~

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「我等の生業」
3. ゲスト紹介 今年度 G S E 派遣
堀 亜希子 様 (海南高校教員)
4. ビジター紹介 和歌山東 RC 中野 幸生 様
海南 RC 西田 紘美 様
5. 出席報告
会員総数 69 名 出席者数 47 名 出席免除会員 1 名
出席率 69.12% 前回修正出席率 75%

6. 会長スピーチ



会長 山名正一君
堀先生ようこそお越
しくございました。堀
先生は昨年 GSE 団員と
してイギリスを訪問さ
れ国際親善を図られま
した。ご苦労様でした。
後ほど卓話よろしくお
願いたします。また、
ビジターの中野様、西
田様、ようこそお越
しくございました。

昨日、次年度のガバナー補佐研修会に参加してまい
りました。会員においては既にロータリーのホームペ
ージ等でご存知のことと思いますが、2008~2009 年
RI 情報ならびに地区方針等についての概略だけ報
告します。詳細については、後日、会長エレクトの宮
田さんに報告していただきます。

RI 会長に就任されるのは韓国の李 東健さんです。
2640 地区ガバナーに就任されるのは和泉 RC の勝
野露観さんです。RI テーマは「Make Dreams Real」
「夢をかたちに」となっています。夢を現実のものに
しようということです。

強調事項は、子供たちの死亡率を減少させることか
ら次の事柄を取り上げています。

1. 水問題
2. 保健衛生・飢餓
3. 識字率向上 (教育問題)

要望事項は

四つのテスト

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深められるか
- ④ みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)
電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 山名 正一 幹事: 上芝 良造 SAA: 上野山 雅也

1. 各クラブにおいて、少なくとも 10% の会員純増
を図ること。
2. 各地区において、新クラブを結成すること。
地区目標は、RI 方針に準じた「夢を現実に。夢
を形にしよう」他 6 項目からなっています。
地区運営方針は、ロータリークラブの魅力を回復・
活性化するためにさまざまな支援を施す。等 5 項目を
掲げています。また、国際協議会の講演においてにお
いて、元 RI 会長のウィリアム・B. ボイド氏は次のよ
うに述べています。「ロータリーでは、長い間、人知
れず奉仕をすることこそ最高の奉仕であるとされて
きましたが、現在では新会員や寄付を募るにしても、
協力団体を求める上でも広い意味での広報が私たち
の将来のカギである」と述べています。私たちのクラ
ブでは普段から社会奉仕を通じて市民社会に広報活
動をしていますが、ロータリーの公共イメージを上げ
るために直一層努力をしたいと考えています。

7. 幹事報告

○メーキャップ

和歌山北 RC	寺下 卓君	1/21 (卓話)
堺フェニックス RC	寺下 卓君	2/7 (卓話)
堺泉ヶ丘 RC	寺下 卓君	2/12 (卓話)
和歌山東 RC	中村雅行君	2/21

○3 月ロータリーレート

1 \$ = 108 円

8. 委員会報告

○社会奉仕委員会

委員長 山畑弥生君

3 月 10 日の献血例会です。この時期は、とても血
液が不足しています。会員の方はもとより、ご家族、
従業員の方にもご協力をお願いします。

○マーキュリーの会

寺下 卓君

ジャズライブ・大阪ツアーの件で、メンバーの方は
例会終了後お集りください。

9. ゲスト卓話

G S E (英国・ウェールズ訪問) 報告

堀 亜希子様 (海南高校教員)

みなさん、こんにちは。昨年 10 月、ウェールズ
への G S E・研究グループ交換の一員に選んでいただ
きまして、1 ヶ月、研修をさせていただきました。ま

道を全員分書いていく、お茶と書道を体験してもらう、ということに行き着きました。

出先から例会の会場へ直接行くこともあったので、10分トイレで浴衣に着替えるということもありましたし、次の日の例会までに夜の3時までかけて「愛」を60枚書いていくとか折鶴2時まで50羽とかいうこともありました。そのぶんとても喜んでいただいて、他国の文化に対する興味・関心の高さがうかがえました。浴衣姿を写真に撮らせてほしい、という方も非常に多く、ほぼスター並みの扱いをうけました。

スター並みといえば、ウェールズの方たちは全員紳士でした。ドアは必ず開けて After you. と先に通してくれます。車はオートで開くにも関わらず、必ずドアを開けてくれ Are you in? と確かめてから閉めてくれます。レストランでは運ばれてきた料理が先でないとして店員にレディファーストに決まっているだろう、といてくれます。

文化的訪問では、お城や教会、大聖堂、博物館、図書館、植物園等の見学をさせていただきました。これは古い炭坑の見学で、地下300フィートまで降りていくので、左下の



のような格好をさせられます。訪問先によっては右下のような格好のときもあって、これは何かというロッククライミングです。泣きかけで

した。大聖堂や教会では、古い建物が多いのですが、その古さがまた敬虔な雰囲気を出していました。ここが最も有名な大聖堂なのですが、私はこちらの左上、Brecon Cathedral という小さな大聖堂、というとおかしな表現ですが、こちらの方が私の持っていた大聖堂のイメージにぴったりでした。教会に十字架はつきものですが、ウェールズでよく見られたのは、十字の部分に円がついているケルト十字というものです。ケルトのデザインは絡み合っていたり渦巻きがあったり、とても装飾的なものが特徴です。あと特徴と言えば Fish & Chips です。UKに行くのにご飯は期待しない方がいいよ、と散々言われていましたが、どれもこれもおいしく頂きました。帰国した次の日に出勤したら、「おかえり、太ったな」と言われました。私はお箸の使い方ではお寿司屋さんで板前さんにほめて頂いたこともあるのですが、ナイフとフォークでグリーンピースを食べるのは最後まで難しかったです。スプーンはとても楽でしたが、スプーンと言えば、右はラブスプーンと言って、ウェールズの伝統工芸品だ



そうです。普通は家の中に飾ってあるのですが、軒先に飾ってあるおうちもありました。中でも外でも関係ないんだなあ、と思ったのですが、中も外も一緒か? と思ったのがもうひとつあって、それが左の写真です。ATMなのですが、突然通りにこのままあるのです。囲いも何もなく、雨の日には傘を差したまま操作です。UKで治安が悪いと感じたことはなかったのですが、この Cash Point だけは使うたびにどきどきして、非常に怖かったです。これを見たときも結構怖かったですね。でも、だいたいはこういった田園風景というか、雨が多いかわりに緑にめぐまれた風景にゆったりとした気持ちになれました。



風景の中には、お城もたくさんありました。それも実際の戦いで崩れ落ち、廃墟のまま残されているものが大多数です。お城は、外敵から自分たちを守るためのものであり、外敵を倒すためのものです。ウェールズの人たちにとって、歴史は日常の一部です。ローマ人がやってきたときには、ノルマン人が攻めてきたときには、と昨日の



ことのように語るのです。日本人にとっての日本史は学生のときの科目のひとつにすぎない、学校を卒業したら忘れてしまうものだ、ましてや必修科目でもない。そういったことを口に出すのははばかられました。

侵略を受け続けた歴史をもつウェールズの人たちは、自分たちの民族に誇りをもっています。ウェールズ人であることを誇りに思う、という表現をよく聞きました。あくまでウェールズ人はウェールズ人で、イングランド人はイングランド人なのです。彼ら同士でも、「あの人はウェールズだから」「あのひとはイングランドだから」ということをしょっちゅう言っていました。イギリスでは、という意味で in England といいかけて、in the UK と言いつけられるのもよく聞きました。最初はその違いがあまりわかりませんでした。そのうち英語に特徴のあることがわかってきました。ウェールズ語はちょっと聞くとドイツ語のような感じがします。その雰囲気で話されるウェールズの人たちの英語は独特のものでした。例えば love はそのままラブと発音します。but はブットです。単語と単語のあいだに切れ目がないので非常にききとりにくいです。あれっ今日はものすごくよく聞き取れる、私のリスニング力も向上したな、とっていると、その人はイングランド人だった、ということがよくありました。しかし、ウェールズ人もイングランド人もアメリカに対する態度は統一していました。日本で英語を教えるとき、教科書で使う単語はアメリカ英語です。例えば lift ではなく elevator ですし、1階は ground



floor ではなく first floor です。イギリスの人たちにとってはアメリカ発音は lazy と表現され、アメリカ英語が席巻しているのは事実かもしれないが、私たちの英語が本来だ、アメリカには歴史も何もない、という言い方を何人もの人から聞きました。自分たちに対する誇りはものすごく持っています。

アメリカに対する姿勢は相当厳しかったのですが、politically correct ということにも非常に敏感でした。「政治的に正しい」と訳されますが、平たく言えば差別的ではない表現を用いることです。女性差別にあたらぬように policeman ではなく police officer, fireman ではなく firefighter を用います。そのあたりは日本でも授業中に触れることがあったのですが、今回 blackboard という表現をしたら”No, no, chalkboard” と言い直されました。black という言葉は避けるべきだと。日本で女性差別に出会うことはあっても黒人差別に出会うことはありません。これはむこうでないかわからない表現だなあと思いました。そういった表現は、ホームステイをさせていただいた方たちや、例会でご一緒させていただいた方たちとのやりとりで学んできました。むこうではほぼ4日ごとでホームステイをさせていただきました。ホストの皆さんは全員優しい方ばかりでした。話し好きな方がばかりで、朝食の席から「最近UKには東欧諸国から移民が多いが、そのことに対しての意見は」とよく議論が始まりました。言葉の乱れ、結婚観、宗教と政治の関係、戦争、女性差別と人種差別、オペラ等々話題は多岐にわたりました。他の団員にきいてみると「折り紙で鶴をおって和やかに過ぎたよ」という答えばかりだったので、あれ？と思いましたが。

帰国して生徒にまず伝えたことは、受験英語が非常に役に立ったということです。そのことは私自身驚きでした。特に大学入試センター試験頻出の単語・熟語が役に立ちました。同時に生徒に一番に伝えたこととは、きちんとした英語を話すということは相手に対して敬意を払うことであり、わかりあうには言葉を尽くす努力を惜しんではいけない、ということです。英語をどう話すかという発音・文法・語彙が大事なのは言うまでもありませんが、英語で何を話すかという語れる中身を持つことが、相互理解の第一歩であることも身にしみてわかりました。「もう少しゆっくり話したほうがいいか」「この表現はわかるか」と常に気にしてくれる人の英語はとてもわかりやすく、何もきかずに早口で話す人の英語はわかりにくい、という傾向がありました。私はまがりなりにも英語の教師なので「ゆっくりしゃべってください」というのも癪なので「あなたの言ったことはこうこうこういうことか」と

質問・確認するクセがつかしました。おかげでたくさん話ができ非常に楽しかったですし、英語を話す機会にも大いにめぐまれましたが、かえって「ああ日本語って美しいなあ」とも思いました。ホストを受け入れる際に参考になればと思うのですが、私自身がホスト先で特にうれしいな、と思ったことがいくつかあります。まず、お客様扱いではなく家族の一員として受け入れて頂いたことです。日常の生活に直にまぜてもらって、お買い物や郵便局やそのへんのお散歩や、自分もずっとウェールズで暮らしているかのような気持ちを味わえたことはうれしかったです。また、日本のことに興味を持ってくれることや、日本料理を喜んでくれたこともうれしく思いました。そしてホストの方たちは、「日本のことを知れてうれしい」「あなたのホストをしていて楽しい」という気持ちをことあるごとに伝えてくださいました。それは直接言葉で伝えてもらったり、カードにしてくれたり、形はいろいろでしたが、きちんと言葉にして相手に伝えるということ



は大事だなと思いました。

今回、学ぶことがたくさんありました。それを私だけの経験に終わらせず、生徒に伝えることで彼らの学ぶ

意欲を喚起するとともに学力の向上の一助となるべく、今まで以上に仕事に邁進しようという決意です。こういった貴重な経験を与えていただきましたことに、今一度お礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

10. 閉会点鐘

次回例会

第1519回例会 平成20年3月3日(月)

18:30～ 海南商工会議所4F

誕生・結婚祝い



ニコニコ・BOX

山田耕造君

緑化センター、花の写真コンテストで銀賞いただきました。

山名正一君

堀先生、本日ご苦労さまです。

寺下卓君

IM2組の旅費いただきました。

岩井克次君

IM2組に出席してきました。

花田宗弘君

堀さん、GSE卓話ありがとうございます。

谷脇良樹君

IM2組交通費を頂きました。

中野幸生様

先日はありがとうございました。

(和歌山東RC)